

令和6年度庄内北部定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事要旨

日 時 | 令和6年12月3日(火)

午前10時～11時30分

場 所 | 酒田市役所7階 703号室

出席委員(6名)

小野英男 委員 富士直志 委員

石川修一 委員 芳賀修一 委員

原田周子 委員 佐藤裕士 委員

欠席委員(2名)

佐藤道子 委員 石川茂捻 委員

~~~~~

## 1 開 会

(略)

## 2 あいさつ

(略)

## 3 報告事項

### (1) 令和5年度の取組状況について

資料1に沿って事務局より説明。

### ○委員

No.3と4は同じちょうかいネットに関することでありながら、医療機関の連携に関しては概ね順調であるのに対し、調剤情報の共有に関しては遅れているという評価である。薬局同士の連携がうまくいっていないのか。なぜ連携が進まないのか。

### ○健康課長

ちょうかいネットは、日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院、本間病院、庄内余目病院のカルテを、診療所や薬局でも見ることができるシステムである。逆に薬局から病院に情報が上がるものではない。

No.4の調剤情報の共有はこれとは別のシステムであり、薬局で処方箋を受け付けて薬の情報を入力し、共有するものである。昨今、電子処方箋の導入が進み、当該システムが不要になってきているため、なかなか増えないもの。

### ○委員

使う側としては、医者からアドバイスをもらったり、薬が重複しないように提供したりしてくれれば嬉しい。利用者側に立って共有していただければと思う。

## ○委員

No. 6 のがん検診受診率向上に向けた取り組みの拡大について、一昨年に参加したときも話をしたが、庄内は胃がん・大腸がんの死亡率がワーストテンに入っている。改善するための努力をいろいろとされてきたのだろうが、残念ながら大きく改善してない。特に胃がんの検診率は圧倒的に低い。これは酒田市に限らず、他市町村も同じ状況。検診率と死亡率は恐らく相関関係にあると思う。一昨年も検診率を上げる努力をすると回答いただいたと記憶しているが、ここ3、4年間、とりわけ胃がんはどの町村もかなり厳しい受診率だと思う。これに関してどのような状況で推移してきたのか伺いたい。

もう1点、No. 25の高校生の地元定着の促進についてである。報告事項にもあったが、人口は予想以上に減少しており、新規高卒者が地元に残っていき、あるいは県外に出ていってしまうのかというのは、人口減少や税収面においてかなり大きなウェイトを占めている。庄内の地元定着率が極めて低いというのは、歴史的にもそういう経過を辿ってきたので、すぐに高めることは難しいかもしれない。今年度の新規高卒者の県内就職率は80.6%だと新聞に載っていたが、目標値の70%とは相当乖離があるし、高いところと比較すると20%ぐらい低くなる。コロナ禍で若干上昇したが、今年はかなり厳しい。いろいろなキャンペーンもやっていると書いてあり、努力されていると思うが、第2期の活動状況とともに課題や今後の対策があれば伺いたい。

## ○健康課長

1点目について、酒田市のがん検診受診者で把握できるのは、主に酒田市の国民健康保険と後期高齢者医療制度の加入者である。企業に勤めている方（被用者保険）は、企業で健康診断を行い、福利厚生で胃がん検診をセットで行うことがある。これについては酒田市で把握していない。国の方でも把握できる仕組みを作らなければならないという問題認識を持っている。受診率が低い理由については、バリウムを嫌う、年齢を重ねてくると検査台の上で動くのが辛い、かかりつけ医で内視鏡検査を行っている、などが推測される。

## ○商工港湾課長

2点目に関し、県内就職率70%という目標値設定の妥当性について説明する。高校生の県内定着については、山形県の中でも庄内が低く、庄内の中でも酒田管内が低いという状況にある。県内定着率とは酒田市内に就職したものではなく、就職者全体のうち県内に就職した人の割合である。内陸においては、例えば寒河江市や新庄市などから、山形市のような多様な職種がある地域への通勤が可能であるが、庄内は山で隔絶され通勤圏内が限られることから、どうしても内陸の方が県内定着率は高くなる傾向がある。なお、酒田管内とはハローワーク酒田が管轄する酒田市、庄内町、遊佐町の範囲を指し、同管内においては内陸のような状態を目標にするのではなく、庄内の中で施策を講じることによる実現可能な目標値として県内就職率70%を掲げている。これは酒田市総合計画の目標値でもある。

この数値が妥当かどうかという話になるが、70%でも確かに低い。改善し、もっと上方修正していくべきだと考える。それに向け現在実施している取組みとしては、高校生を対象とした企業見学ツアーがある。これまでは、いわゆる就職者の多い酒田光陵高校や酒田南高校を主な対象としていたが、今年度はこれらに加えて酒田西高校と酒田東高校でも実施した。この企業見学ツアーは、単に地元企業を見学するものではなく、自分

たちの先輩などが就職している企業に伺って、直接その先輩方から実際の仕事の中身を聞くというような内容になっている。まずは地元企業を知ってもらうことが大事である。自分の目で見て、実際に話を聞くというツアーとなるよう注力している。

もう1つは、地元に残ってもらうための仕事が必要である。若い方が比較的魅力を感じる情報サービス業の誘致を進めており、ここ数年で4社ほどを誘致した。企業誘致、企業立地も合わせて働く場や職種を増やすことにも取り組んでいる。

## ○委員

後段の新規高卒者については大変な状況だが、県と市町で定着率を上げていく努力を継続していく必要がある。人口減少に歯止めはかからないかもしれないが、大きな減少を防ぐ最善の近道ではないかと考えている。

前段のがん検診については、バリウムを嫌う人がいるという話だったが、これは酒田市民に限った話ではないので理由にはならないのではないかと。乳がん検診もかなり大変だと聞いているが、検査が大変だからといって受診率が下がっても仕方がないというような考え方はすべきではないと思う。やはり少しずつ受診率を上げていく努力をしていくべきではないだろうか。先ほどは対策について伺っていなかったのですが、バリウムだけでなく内視鏡検査の補助はどうなっているのかなど改めて伺いたい。

## ○健康課長

胃がんに関しては、現在は受診勧奨のみを行っている状態であるが、並行して医師会に対し内視鏡検査を導入できないかと相談している。

## ○委員

内視鏡検査の費用は高額なので、行政で補助するといっても限界があると思う。しかしながら、やらないというわけにはいかないと思うので、一定の年齢に限って実施するなど、受診率を上げる努力を継続していただきたい。

## ○委員

No. 36の地域公共交通ネットワークの構築に関して、三川町にもデマンドタクシーはあるが町外には出られない。このため、町外に出て通院や買い物ができる仕組みが作れないかということを検討しているが、庄内全体の交通会議で主に鶴岡市から反対を受けており、うまくいっていない。庄内町のデマンドタクシーの域外運行が可能になった経過について、詳しく教えていただきたい。

## ○都市デザイン課長

余目酒田線については、医療機関に行きたいというニーズが非常に高かった。日本海総合病院に通院の方が非常に多いということだったので、庄内町でいろいろな取り組みを行う中で郊外に行く路線を開設したと伺っている。

三川町は郊外に出る路線がないということであるが、庄内交通が、三川イオンで乗り換える形ではあるが鶴岡線、酒田線を運行している。酒田線は全て日本海病院で停車するので、一定の利用はあるかと思う。三川町で独自にデマンドタクシー等の公共交通を運行するニーズはあると思うが、費用や事業者などの課題があり、今後検討が必要だと思われる。

酒田市ではもう1つ旧松山町と庄内町を結んでいるデマンドタクシーがある。松山地

域には生活圏域として庄内町へ買い物に行くとか、庄内余目病院に通う方が結構いて、要望を受けて取り組んだものである。目標値を3路線と設定しているが、現在のところ域外へ行く余目酒田線、松山庄内町線の2路線という実績になっている。

遊佐町でも恐らく同じような課題を持っているものと思われる。当方としても拡大したい考えはあるが、昨年の懇談会でも話したとおり、事業者側からドライバー不足の問題が非常に大きいため難しいという声をいただいている。今後も引き続き検討していきたいと考えている。

#### ○委員

他になれば報告事項を終了し、協議事項に移りたい。

4 協議事項、第3期庄内北部定住自立圏共生ビジョンの改定案について事務局から説明願う。

#### 4 協議事項

##### (1) 第3期庄内北部定住自立圏共生ビジョンの改定案について

資料2に沿って事務局より説明。

#### ○委員

No.11の地域密着型サービス（認知症対応型共同生活介護）広域利用事業について、第2期では進捗がずっと遅れている。認知症の方は結構多いが、家族に認知症の方がいることを公表することにためらいがあるというか、言いにくい。そういった家庭の利用に関しては遅れていると感じる。

#### ○高齢者支援課長

本事業について、酒田市と3町とで相互に行政界を越えて入所している方は現在9人であるが、希望者は全て入所できている状況である。昨年の本懇談会において、酒田市の施設に入れないという話を伺ったが、3町から酒田市の施設を指定していただければ入所できる。なお、今のところ3町からの指定はない。

#### ○委員

内容について誤解していた。質問が少しずれており申し訳ない。

もう1点。12月に入ってから、テレビでも新聞でもマイナ保険証の話題でもちきりである。酒田市でマイナ保険証に移行した人の数は分かるか。

#### ○企画調整課長

マイナンバーカードにどれくらいの方が健康保険証を紐づけているかのデータは、この場に持ち合わせていない。担当課に確認後、委員の皆様にお知らせしたい。

⇒ 本懇談会終了後、担当課である国保年金課に照会した結果は次のとおり。

酒田市では国民健康保険被保険者の紐付け率のみ把握しており、企業に勤めている方（被用者保険）の分は把握していない。9月末現在の国民健康保険被保険者数は18,666人で、うちマイナンバーカード保険証利用登録をしている方は13,372人、登録率は71.64%である。

## ○委員

ぜひお願いしたい。テレビや新聞の報道では、全国的に15%程度と実に低い数字となっている。マイナンバーカードの保険証利用は1つの目標になっている。カードを持っているだけでは駄目で、保険証として紐付ける手続きをしなければならないが、それを行っていない人が多い。今後登録率を上げてほしい。

資料について他に質問や意見がなければ、資料記載以外のことでも構わないので、日頃思っていることや提言などを1人ずつ伺っていききたい。

## ○委員

No. 23の消防防災・災害対応体制の充実について伺いたい。今夏2回の大雨で、とりわけ酒田市と遊佐町は大きな被害を受け、現在も復旧復興が進行中のことと思う。災害ボランティアに関しては社会福祉協議会あたりが中心になっていると思うが、今回の災害ではどうしたらよいか要領が分からず、必要な人数が十分に集まらなかったという声も聞いている。100年に1度レベルと言われているが、こうした大変な災害が今後もやってくる可能性がある。圏域の市町同士でお互いにボランティアに参加するような助け合うシステムがあれば、復旧のスタートもスムーズに切れるのではと思った。住民も防災意識をもっと高める必要がある。

広域消防と、各市町村にあると思われる社会福祉協議会との関係がどうなっているのか伺いたい。災害対策やボランティアはどういう動きになるのか、あるいは現在どうなっているのか。また、今回大雨の状況をつぶさに酒田市民も含めた地域住民が十分理解している状況ではないが、今後そういったことをこの定住自立圏の取組みの中で検討していくことも必要なのかなと感じた。

## ○委員

1点目は全般的な災害対策に関して、所感で構わないので危機管理課から回答いただきたい。

2点目は、社会福祉協議会に関して。今回の災害では酒田市、遊佐町それぞれの社会福祉協議会で災害ボランティアセンターを立ち上げた。酒田市のボランティアセンターは過去の経験も生かして、様々なアピールも含め非常にすばらしい動きしてくれた一方で、遊佐町のボランティアセンターではそういったノウハウが無いことから、当初なかなかボランティアが集まらなかった。酒田市のボランティアセンターは、11月1日から酒田市被災者生活支援・地域支え合いセンターに移行し、避難者のトータル的なサポートを従来の仕事に組み込んで行おうということで進んでいる。事務所は酒田市社会福祉協議会にある。ボランティアセンターに関する社会福祉協議会の横の連絡はなかったのかということに関して、当局で回答可能か。

## ○高齢者支援課長

所管は地域福祉課だが、本日は出席していない。

## ○委員

であれば、このような提案があったことを共有いただきたい。酒田市社会福祉協議会のボランティアセンターと遊佐町社会協議会のボランティアセンターの横の連絡で助け合いがあったかどうか。融通という言い方でもよい。担当課に確認をお願いする。

⇒ 本懇談会終了後、担当課である地域福祉課に照会した結果は次のとおり。

社会福祉協議会同士で連絡を取り合っているほか、山形県社会福祉協議会が人員派遣の調整などを行い、災害対応にあたっている。

## ○委員

2点、意見させていただく。

1点目は、先ほども質問があった地域公共交通のネットワークについてである。庄内南部定住自立圏の会議に参加した際、庄内交通路線バスの鶴岡－清川線の運行が廃止になるとの話があった。鶴岡－三川－酒田線も早晚廃止になるのではないかと質問したところ、鶴岡市の担当部長からは協議してみるとの回答があった。三川町の担当者の話では、庄内交通から鶴岡－酒田線は当面廃止しないと伺っているとのことだったが、見ているとほとんど利用者がいないため、どこまでの確約かは分からない。

市町間を跨ぐデマンド交通について、庄内町は随分進んでいる。三川町においても大きな課題であると感じた。三川町にもデマンドタクシーはあるが、町外には出られない。実際に域外への運行に取り組んでいるところがあるため、負担はあるかもしれないが法律上は可能である。三川町当局の考え方が少し後ろ向きだと感じた。

もう1点は少子高齢化についてである。三川町は現在小学校が3校、中学校が1校であるが、当面はこの体制が続くということで各校舎を充実させたところ、ある地区では昨年、今年と出生数がかなりゼロに近い1桁しかいないとのことで、早晚、統合なり再編なりを考えなければならない状況になっている。遊佐町では既に全ての小学校を統合し、鶴岡市も1回目の小中学校再編は終わっているが、それが完了する前に存続していた小学校で複式学級の導入が必要なところも出てきて、次の再編に向かっている。藤島地区は、小中一貫校を検討しているようである。

高校に関して、致道館中学校・高校ができて、酒田市内の公立高校の普通科もここ2、3年定員割れを続けていることから、再度の再編も考えていかなければならないのではと危惧している。羽黒高校が結構な生徒数を集めているが、通学の足が確保できているためではと考える。

少子化対策は各市町村で取り組んでいるが、情報交換などをしながら全体で考えていかなければならない。少子化を止めることは国でもできないため、そのあたりを本懇談会で協議するのかどうか。問題提起させていただく。

## ○委員

非常に広い内容に渡って、提言、提案、あるいは問題提起をいただいた。1つ1つが重要で、心に刺さった。全て当たっている。当局の説明は求めないので、このような提案があったことを記録していただければと思う。

## ○委員

自分からも交通網の整備に関して意見を申し上げる。現状としては今話があったように、庄内交通路線バスの鶴岡－三川－酒田線は赤字であり、これを維持するために市町でも要望しながらお金を出すという形でやっている。逆にデマンドタクシーを鶴岡や酒田に乗り入れすると庄内交通の利用者がまた減ってしまうという、どっちつかずの矛盾に陥っている感じがする。

利用者にしてみれば、やはりデマンドの広域化の方がはっきり言って便利である。町中

では片道300円で動けるが、域外に出ると通常のタクシー料金に変わり何千円となってしまうため利用しづらい。これからの広域交通のあり方という意味では、路線バスも厳しいが維持しないよりはむしろ維持した方がいい。学生も利用している。一方、高齢の免許返納者や運転できない人の利便性を考えると、やはり自宅から直接目的地まで行ける方がよい。今のところ、病院のみだが社会福祉協議会でボランティアによる移送サービスを行っているが、買い物ができない。車と時間がある人が若干の料金を取りながら移送を行うという新しい動き（ライドシェア）も問題になっているが、そういうことも含めて移送サービスを検討していかないと解決できないのではという思いがある。

先ほどの話の酒田市ボランティア・公益活動センターは、非常に注目できる仕組みだと思っている。ボランティアも無償・有償に限らず、住民の自主的な活動が盛り上がっていくことを支援する機関として非常に重要ではないかと思う。現状は広域的な活用がなかなかできていないようだが、これには宣伝の問題もあるだろうが、前述のボランティアによる移送サービスを行うことができないだろうかと思う。東京都稲城市に行ったことがあるが、500円の有償ボランティアによる移送サービス（稲城市社会福祉協議会のハンディキャブ事業）を行っている。そうした活動も含めて広げていただければいいと思っている。

## ○委員

地域公共交通に関しては、様々な角度、視点から意見があろうかと思う。高齢者の免許返納後の交通手段として、自転車はルール改正により気軽に乗れなくなっている。るんるんバスも非常に細かいところまで運行しているが、やはりドアトゥドアという考えが抜けない。デマンドタクシーが一番利用しやすいが、事業者の事情もあって自分の希望する全ての場所に行くことはできない。

利用者側からこうした提案があったことを記録してもらえれば結構である。第3期以降も同様に各部署、事業者で話し合いが続いていくので、いい方向に動いてくれるものと期待する。

## ○都市デザイン課長

公共交通について1点だけ話をさせていただきたい。庄内交通の鶴岡―三川線、三川―酒田線に関して今回の資料にも記載しているが、補助要件の基準人数を下回っている。庄内交通でもドライバー不足は非常に喫緊の課題であり、厳しい状態の中で運営している。補助はないが今後どうするか、庄内交通から相談を受けているのは事実である。当方としては、通院している高齢者や、通学で利用している学生の足を無くすことは、行政の公共交通としてやってはいけないことだと考えている。これについては、庄内交通側から一定程度の赤字負担をお願いされており、現在来年度の予算要求中であるが、市長にも話をし、当該路線を維持しなければならないという認識である。鶴岡、酒田という2の大きな町を結ぶ路線であり、昨今JRも様々な災害で止まる可能性もあるため、二次的な交通ということで維持しなければならない方向で協議を進めているところである。

デマンドタクシーの導入経緯について、利用は主に通院の方が多いが、昨今足が不自由な高齢者が非常に多くなり、バス停まで行くのも大変だという方がかなりいらっしゃる。厳しい冬季にバス停で長時間待っているのも非常に大変であるため導入したもの。これに関しては一定程度の評価をいただいているところであるが、停車場など様々な要望を現在もいただいている。事業者側と協議を重ね、何とか市のサービスとしてしっかりとフォローしていけるように、現在検討しているところである。民間事業者があり、市直営でや

るものでもないことから、その部分は非常に難しいと思うが、地域公共交通インフラはしっかり維持していく方向である。

#### ○委員

力強く方向性のしっかりした発言だった。今後について期待する。

#### ○委員

2点、質問したい。1点目は、No. 2の域救急医療体制の充実支援に関して、令和5年度の受講者は2,170人、第2期目標の3,500人に対して現在は1,166人と達成率が非常に悪い。目標達成に向けて何か計画を立てているのか。あるいは昨年度から改善した部分などはあるか。

もう1点は、少子化、人口減少、勤め先がないなど問題が全部リンクしている中で、唯一地域の明るい材料としては、遊佐沖、酒田沖の洋上風力発電事業が現実化してきていることである。酒田北港という立派な設備もある。これを巡って行政、あるいは企業では商工会を通じて様々に活動しているところであるが、酒田市と遊佐町の間で連絡協議会のようなものが立ち上がっているのかどうか伺いたい。

#### ○健康課長

1点目の救命講習等の受講人数について回答する。救命講習は消防本部で担当しているが、コロナ禍が始まった令和2年度から講習会自体を開催できなくなった。消防でも講習動画を動画投稿サイトにアップし、広く視聴できるよう工夫してきた。昨年5月に新型コロナが5類に移行し、平時と同じような救命講習ができるようになって徐々に受講者も増えてきている。

#### ○商工港湾課長

2点目の洋上風力発電において遊佐町と酒田市で何らかの協議会があるのかという質問について回答する。遊佐町では12月中に事業者が公表される予定で、酒田市はそれよりも少し遅れて、皆様に意見を聞きながら導入について検討している段階である。結論から申し上げますと、何らかの公的な協議会を立ち上げ、意見交換や協議を行っているということはないが、遊佐町と酒田市の担当課間では日頃から連絡を取り合っている。両市町で酒田港を基地港湾として使用することが前提としてあるため、経済効果、経済波及効果、地域振興策など、両市町において最大のメリットが得られるように必要な調整や進め方などについて意見交換をしているものである。将来的には協議会を作る可能性もあるが、現状ではまだそのような段階にはない。

#### ○委員

庄内町としては、広域的な面において医療、福祉、介護も含め皆何も不満はないものと感じている。酒田圏、鶴岡圏のどちらにでも行ける位置にあるため、教育面でも皆それぞれ自由に自分の子供たちに合ったところを選んで進学している。

デマンド交通について、たまたま昨日、白内障で手術をすると翌日目が見えないことからデマンドを使っているという話を聞いた。利用者は本当に賢く使っているなど感じる。

広域的な話になると、医療、介護、社会福祉といった社会的な事項が中心で、経済に関してはそれぞれで取り組むべきだとなる。先ほども内陸は通勤圏内に働く場がとて多く、就職者が結構まとまっているとの話もあったが同感である。商工会関係で県の方に行

くと、内陸の人たちの絆がとても強いと感じる。庄内の商工会は現在4つ、対して内陸は20である。なぜ内陸の方がこんなに絆が強いのだろうと思ったら、先ほどの通勤圏の話に全部繋がっている。庄内は本当に分断されている。そう考えたときに、庄内はひとつにまとまらなければ、ただ埋もれていくのではと強く感じた。

例えば、鶴岡はいろいろな祭りにどんどん出店してほしいという気持ちがすごく強い。一方、酒田の場合は酒田に支店がなければ駄目とか、連絡できる場所がないと出店できないといった縛りがあった。行政レベルでは非常に交流しているように見えるが、経済面では自分の利権を守ることも必要になってくるので、そういった考えになってくるのかもかもしれない。そこはやはり庄内はひとつ、せめて北部は一緒にやれるような意識を持っていくことが必要なのではないか。

庄内から内陸へ行く際に国道47号線を使うが、なかなかトンネルが開通しない。トンネルが開通しないということは、陸羽西線も再開しない。そのうち、不採算路線ということで陸羽西線が廃線になるのではないかと、通るたびに危機感を持っている。そういった面からも、庄内一丸とならないと繋がっていかないとと思う。

先日鶴岡の経済関係者から話を伺ったが、遊佐町の風力発電に非常に期待しているとのこと。庄内がどこからでも繋がるようになればいいが、そもそも道路が繋がってない。高速道路も途切れている。庄内空港も滑走路が短くて大きい飛行機が来ない。せっかく洋上風力という大プロジェクトが動いているので、これを足がかりにして、もっともっと交通網を拡大し、経済を発展させていきたいという内容だった。

広域的に物事を考えるときに、将来に対する希望、こういうふうになってほしいと思うものを提示できるような、そういった会議がたくさんできていけばいいと思っている。

## ○委員

本日の会議の名称は、庄内北部定住自立圏共生ビジョン懇談会である。この言葉の意味するところについて、様々な方面から話をいただいた。庄内は昔から島国根性が強いと言われてきたが、この人口減少の中、庄内北部でお互い交流し助け合って、少ない資源を有効活用しようじゃないかという思いは、本日の会議に参加されている皆が一緒だと思う。今の話をまとめると、本日のテーマそのものである。第3期の取組みに向けての提言であるので、そのまま受け取っていただきたい。

## 5 その他

### ○委員

委員全員から発言いただいた。5 その他について、委員側から何かあるか。  
なければ、事務局の方から何かあるか。

### ○事務局

様々な提言をいただき感謝申し上げる。第3期共生ビジョン案については、この後12月6日から25日までパブリックコメントを実施し、広く意見を聴取する。本日の懇談会で出た意見と合わせ、必要に応じて内容を修正し、来年1月17日に開催される構成市町の首長による推進会議に諮り最終決定する。公表は3月末となる予定である。

本日の議事録については、取りまとめた後に各委員に郵送させていただくので確認をお願いしたい。1月中旬に酒田市ホームページに公開する予定である。

## 6 閉 会 (略)